

みんなでLet's Try! ~たき火とアートとスポーツと~



開催要項

- 1 趣 旨 障がい者の生涯学習推進に向け、障がいの有無にかかわらずスポーツやアート作品作りに取り組む楽しさを体験することを通じて、障がいの有無にかかわらない社会参加や活躍の場づくりの機会とするとともに、障がい者の学びを支援する人材育成の基盤とする。
- 2 主 催 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川 北海道教育庁空知教育局
- 3 協 力 三橋 純予 氏（北海道教育大学岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 教授）
齊藤 雄大 氏（一般社団法人「HOOKAIDO ADAPTIVE SPORTS」代表）
- 4 期 日 令和6年10月19日（土）～20日（日） 1泊2日
- 5 会 場 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川
- 6 定 員 20名程度 ※定員を超えた場合は、選考・抽選を行います。
- 7 参加対象 小学3～中学生（障がいのある方もない方も）
※障がいのある方は、保護者・介助者の同伴も可能です
- 8 参加経費 当日受付でお支払い下さい。

参加費	内 訳
¥3,100	内訳：利用料、保険料、食事代、その他消耗品費 ※障がいのある方、その介助者・保護者の方は参加費の一部が免除になります。 ※日帰り参加（1日目のみ、2日目のみ、両日日帰り等）も可能です。ご希望の方はお問い合わせください。参加形態により、料金が変わります。

9 日 程

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
19日（土）	10:30 受付開始			出会いの集い	みんなでスポレク	昼食	みんなでアート		休憩		夕食	みんなでたき火	入浴 自由交流	就寝		
20日（日）	起床	朝食 活動準備	みんなでパラスポ		別れの集い	12:00 解散										

<内容>みんなでスポレク・・・みんなが参加できる遊びを行います。いっしょに過ごす仲間と仲良くなろう。
 みんなでアート・・・いろいろな形のキャンバスに絵の具をぬって、自分だけの作品をつくりだそう。
 みんなでたき火・・・たき火を囲んでリラックスタイム。みんなで交流しましょう。
 みんなでパラスポ・・・パラスポーツを体験しよう。楽しく体を動かそう。

- 10 持ち物 うわぐつ、着がえ、洗面・入浴用具（石鹸、シャンプー、タオル等）、筆記用具、活動に合った服装（運動できる服装や汚れてもいい服装を準備してください）、保険証（コピー可）
- 11 申込方法 右の2次元コードか、ネイパル砂川 HP から申込フォームにてお申込みください。
※申し込み後、自動返信メールが届くように設定しています。返信がない場合は、お手数ですがネイパル砂川までお電話ください。定員を超えた場合は、選考・抽選を行います。



- 12 申込期日 **令和6年9月14日（土）9:00 ～9月23日（月）17:00**

- 13 その他 本事業開催中に撮影した写真や製作した作品、参加者の感想及び感想発表者の氏名は、新聞等の報道や道庁ブログ、当施設HP、広報チラシ等で掲載することがありますので、あらかじめご了承頂いた上でご参加下さい。なお、保険については、国内旅行傷害保険に加入し、保険内容の保障は行いますが、それ以上の保障は負いかねますので、ご了承の上、お申し込みください。

(注) 保険については、国内旅行傷害保険に加入し、保険内容以内の保障は行いますが、それ以上の保障は負いかねますので、ご了承の上、お申し込みください。



北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川

(指定管理者 一般財団法人北海道子どもの国協会)

〒073-0108 砂川市北光4 9 6 番地の2 5

電話 0125-53-2246

メール sunagawa@cocoa.ocn.ne.jp

※ネイパル砂川は「地域ESD活動推進拠点」登録施設です

施設ホームページ



「みんなで Let' s Try!」

1 事業概要

- ・ 目的：障がい者の生涯学習推進に向け、障がいの有無にかかわらず共にスポーツやアートに取り組む楽しさを体験させることを通じて、障がいの有無にかかわらず社会参加や活躍の場づくりの機会とするとともに、障がい者の学びを支援する人材育成の基盤とする。
- ・ 連携団体：北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川、北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室、一般社団法人「HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS」
- ・ 日時：令和6年10月19日（土）～20日（日）1泊2日
- ・ 会場：北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川
- ・ 対象：小学3年生～中学生（障がいがある方もない方も）
- ・ 参加者：38名（うち、障がいのある児童6名と付添の家族3名）

2 内容や活動の様子

- ・ 最初に自己紹介や簡単なゲーム等をとおして参加者同士の中を深め、参加者とボランティアも話しやすい空気づくりを行う。
- ・ 1日目のメインプログラムとして、好みの形のキャンバスを選び、アクリル絵の具で着色したり、紙粘土やシールを使った装飾をしたりするなど、自分だけのアートづくりを実施。
- ・ 1日目夜は、焚き火を囲みながら、焼きマシュマロを体験して交流。
- ・ 2日目は、パラスポーツのボッチャと車椅子バスケットボールの体験を実施。

3 運営上の留意事項

- ・ 入浴時間や部屋割等、障がいのある児童に配慮。
- ・ 事前の学習会や、当日のミーティングの中で、特に障がいのある参加者への配慮事項をスタッフで確認。
- ・ 参加者の意識の変容を見取るため、事業の前後にアンケートを実施。



4 参加者からの感想

- ・ 車椅子のスポーツを初めてやったけど、楽しかった。
- ・ 一人で参加したけど、話しかけてくれる人がいてうれしかった。
- ・ いろいろな人とパラスポを楽しくできて良かった。
- ・ ものすごく楽しかった。来年も楽しみにしている。



5 成果と課題

- 成果
 - ・アンケートの変容調査項目の結果が、事前事後ともに半分以上の項目で高い水準で増加しており、事業のねらいは概ね達成されたと考えられる。
 - ・9割近くの参加者が「楽しかった」「まあまあ楽しかった」と回答している。事後アンケートの感想を見ると、人気の高いたき火のプログラムを行ったこと、パラスポーツや小さなキャンバスを使った作品作りといった今まで体験したことのない活動を行ったこと、自分の通う学校以外の人と触れ合うことができたことが要因と考えられ、事業として満足度の高い作りになっていると考えられる。
 - ・昨年度よりも障がいのある参加者が増加したことで、障がいをもつ方とたない方が関わる機会が増加し、参加者の障がいに対する理解が深まった。
 - ・定員20名の募集に43名の申し込みがあった。参加者の多くが学校からのチラシを見て参加しているため、広報計画が有効であったと考えられる。
- 課題
 - ・参加者同士の積極的な交流が始まるまでに時間を要した。アイスブレイクの時間配分やプログラム内容を事前にしっかりと検討し、アイスブレイク後には交流がある程度進んでいる状態にすることが必要である。
 - ・アートのプログラム内で筆を洗う水の交換やパレットを洗う場所が混雑したり、使いづらくなったりしていた。参加者の動線や必要物品の見通しが不十分だったので、事前の想定をより入念に行い、参加者をどのように活動させるか、道具はいくつ必要か、どのように配置すると使いやすいのかを考えて準備を行うようにしたい。
 - ・付添の家族がいたため、障がいをもつ参加者への対応を色々と支援していただいたが、障がいの程度に合わせて、付添が無くても参加できる運営体制を目指していきたい。

